

私はこんな風に使っています! 石灰窒素

石灰窒素は誕生して百有余年、永年にわたり沢山の方々に
ご愛顧いただいておりますが、時が移り行くなかで石灰窒素の
効能や効果的な使い方が忘れられてきているように思われま
す。そのなかで読者の皆さまから「石灰窒素の使用事例を知り
たい」などのご意見が多数寄せられました。

弊会では、多くの使用事例を紹介するため、会員各社から取
材の協力を得ながら最近の使用事例を紹介することで要望に
応えたいと考え、本コーナーを設けました。どうか一読いただき、
石灰窒素の多機能ぶりをご理解いただければ幸いです。
末筆になりましたが、寄稿いただきました皆さまに心から感謝申
上げます。
(日本石灰窒素工業会)

農家の石灰窒素使用体験記

アスパラガスに石灰窒素で省力化と雑草軽減!

北海道名寄市 小泉さん

アスパラガスに石灰窒素を施用して成果を上げている
名寄市智恵文の小泉さんの事例を紹介します。小泉さん
は、経営面積18haの畑作野菜農家で、露地アスパラガス
(1.5ha)のほか、小麦、大豆、タマネギ、カボチャ、ユ
リネを栽培されています。

アスパラガスに石灰窒素を使い始めたのは平成9年か
らです。当初の目的は省力化で、春先に肥料と消石灰を
2回に分けて実施していた散布作業を1回に減らすこと
でした。方法は簡単で、茎葉処理後(4

月下旬)にブロードキャスターで石灰窒
素(100kg/10a)を散布した後、ロータリ
ーをかけるだけです。アスパラガスの萌
芽は5月中旬以降なので、危惧される石
灰窒素による障害はみられないとのこと。

石灰窒素の施用は、省力化以外にも雑
草の軽減という効用がありました。春先
の一年生雑草はかなり抑えられているそ
うです。6月以降にはアカザやタンポポ
などが発生しますが、収穫終了後にロー



アスパラガスに石灰窒素を施用している小泉さん

タリーですき込めば問題なしとのこと。また、やっかい
なスギナにも効果的で、周りの圃場に比べてその発生量
が少ない状況は見た目にも明らかです。

また、小泉さんのアスパラガスはここ数年、増収傾向
にあり、今年の収量は600kg/10aでJA平均の2倍近
く穫れたとのこと。収穫後に追肥を行わないため、石
灰窒素由来の窒素が緩効的に作用していることが、多収
要因のひとつとして考えられます。アスパラガスの生長

に合わせてじっくり吸収され、養成
茎がしっかり育ち、翌春、若茎が勢
いよく萌芽するのに十分なだけの栄
養分が貯蔵根に蓄えられているの
ではないでしょうか。

“省力化と雑草軽減”というメリッ
トのほかに“増収”にも寄与してい
るとなれば、石灰窒素の優れた特性
を活用した事例といえます。今後と
も石灰窒素を末永く使っていただき
たいです。(取材:デンカ(株) 江川)

石灰窒素はコストパフォーマンスが高い!

茨城県稲敷市 坂本さん

茨城県稲敷市の坂本さんは農家歴約50年。水稲20ha、ブロッコリー1.2haを奥さまとお二人で栽培されています。台風の被害が残るお忙しいなか、快くお話を聞かせてくださいました。

坂本さんは、水稲とブロッコリー栽培の両方で石灰窒素をご使用いただいています。

水稲では、地力向上を目的として12月～年明け頃、20kg/10aを施用されています。

「砂地の圃場があり、鶏ふんの施用など地力向上に気を配っています。多収品種“とよめき”の栽培を機に、普及センターの勧めで石灰窒素を使い始めました。特に初期生育のよさを実感しています」と坂本さん。基肥は減肥せず、追肥で調整しているそうです。「今は品種や圃場を限定して石灰窒素を施用していますが、それ以外でも使っていけるように研究が必要です」と熱心な様子うかがえました。

ブロッコリーでは、残渣分解、地力向上、土壤消毒、雑草対策と多様な効果をねらい、土づくり資材として基肥施肥前に約60kg/10aを施用されています。鶏ふんと併



石灰窒素の多様な効果を理解して使いこなす坂本さん

用して土づくりをすることで、使用4～5年で水田のゴロゴロした土がフカフカとした畑の土に変わってきたそうです。

「わが家は手も少ないし、コストパフォーマンスを重視したら石灰窒素。石灰資材は省略できるし、年2作の作間が2ヵ月弱と短くても残渣は気になりません。土壤消毒はしません

が、石灰窒素を使っていれば、べと病などが大発生した翌年にも病気が残らない印象があります」とのこと。

水田地帯でもあるため、秋冬作では周囲の水稲に影響がないよう、飛散に気をつけて散布しているとお話でした。坂本さんが所属するブロッコリー部会では、石灰窒素を使用する人が増えてきているそうです。県内一のブロッコリー産地でお役に立てているとうかがい、とてもうれしく感じました。

石灰窒素の多様な機能を熟知されたお話が印象的なインタビューとなりました。坂本さんありがとうございました。

(取材協力：J A稲敷、稲敷地域農業改良普及センター、取材：片倉コープアグリ(株) 田中、神原)

石灰窒素で省力化と作業性向上を実感

千葉県野田市 (株)野田自然共生ファーム 伊藤さん

今回インタビューに応じてくださった(株)野田自然共生ファームの伊藤さんは、千葉県内の麦類・大豆の産地で大規模な経営を行っています。

伊藤さんは、以前から次のような悩みを抱えていました。

- ①管理する面積が広い
ため、省力的な施肥法で作業負担をできる限り減らしたい。
- ②大豆前作の麦稈の処理に困っている。

これらのお悩みに石灰窒素で対策すべく、試験に取り組んでいただくことになりました。

- ①については、まず麦類の基肥として播種7～10日



石灰窒素の多様な効果に期待を寄せる伊藤さん

前に石灰窒素を施用する試験からスタートしました。普段はコーティング肥料入りの一発肥料などを使用されていますが、希望するタイミングで肥効が現れないことがあり、追肥を行うこともあるそうです。石灰窒素を施用した圃場では、葉色がよかったため、今回は追肥を省略できたとのことでした。また、省力的に栽培できたにもかかわらず、慣行の一発肥料と同等の収量が得られました。

②については、麦稈の分解促進を目的に、25kg/10aの石灰窒素を麦刈り跡に施用していただきました。

「3～4週間経ってから耕うんしたところ、石灰窒素を使った圃場ではロータリーへの麦稈の絡みが減って、作業が驚くほど楽になりました」とコメントをいただきました。「いつもなら耕うんのときに麦稈や株跡が多く残っていて、圃場がデコボコになります。石灰窒素を使った圃場では、簡単に綺麗に平らにすることができました」と作業性の向上を実感していただきました。

また、後作の大豆では「生育がよく、通常7、8段しか付かない品種が、10段にもなりました。収穫が楽しみです」と石灰窒素の施用が麦秆分解促進と同時に窒素飢餓対策となり、大豆初期生育が促進された様子がうかがえました。

伊藤さんの石灰窒素への期待感が伝わってくるようなインタビューとなりました。お忙しいなか、ありがとうございました。

(取材協力：J A ちば東葛、全農千葉県本部、取材：片倉コープアグリ(株) 川島、上村、田中)

地力向上と除草効果、一度に得られる石灰窒素

富山県立山町 織田さん

富山県立山町で水稲、各種野菜などを栽培し、石灰窒素を18年以上使い続けている織田さんに寄稿いただいた体験記を紹介します。

富山県中新川郡立山町で水稲1.5haを作付けしており、品種は早生の「てんたかく」が3分の1、残りは中生の「コシヒカリ」です。このほか母親が畑作を担当し、近所のスーパーや学校給食にイモ類、豆類を中心に食材を納入しています。

中山間地域の特徴で山砂と粘土が混ざったような土質で乾田が多く、特に水持ちが悪い圃場では、代かきをしっかきしても、水をかけ流ししておかなければ田面が出てしまうところもあります。常に用水から水を入れるためか、ノビエ、コナギ、タデ、ウリカワなど雑草の種類も多く、また数年前に農道拡幅工事があり、新たに設けられた畔の近くにはそれまで見なかったタイヌビエも出てくるようになりました。水持ちが悪い場合、水と一緒に養分が流出するほか、雑草に養分を取られることも

あって地力が消耗してしまうようです。

そこで、9月の「コシヒカリ」の稲刈りが終わると石灰窒素を20～30kg/10a散布し、稲わらすき込みも兼ねてトラクタで浅めに耕起します。すると10月上

旬には休眠覚醒した雑草たちが芽を出し、やがて秋の深まりとともに枯れていくため、翌年は圃場がかなりきれいになります。当地の場合は稲刈り後すぐに散布と耕起をし、また浅めに耕すことで雑草の種を地温の高い環境に置いてやるのが大切だと考えています。

地力向上と除草効果が一度に期待できるため、石灰窒素は今後も手放せません。

(掲載担当：日本カーバイド工業(株) 一宮)



石灰窒素を18年以上使い続けている織田さん

キャベツ栽培には欠かせない石灰窒素

愛知県豊橋市 金子さん

愛知県東三河地区にある豊橋市は、過去に水不足問題があるなか、サツマイモや小麦を栽培していましたが、昭和43年に豊川用水が通水し、今では全国的でも有数のキャベツの一大産地となっています。

その神野新田地区のキャベツ農家の金子さんは、固くずっしりと重い冬キャベツを奥さまとお二人で9反ほどを栽培されています。

今までは、近隣の処理場から出る汚泥に石灰を混ぜて乾燥させたものを3年に1回投入していましたが、ネコブセンチュウ対策でさらによい資材はないか探したところ、3年前に石灰窒素を見つけ使い始めました。

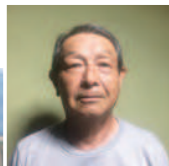
基肥と同時に100～120kg/10a施用しており、アルカリ

のpH改善と農薬の効果によりネコブセンチュウの発生が減少したとのこと。今後も石灰窒素を継続して使っていきたいとのことでした。

石灰窒素の効果をより発揮させるには、施用時に土壌とよく混和することが重要と強調されていました。また、石灰窒素を追肥として使用する場合もあり、雑草が多い時期には除草効果も発揮されるようで、いろいろな生育場面で幅広い使い方があるところがよいとの話もありました。残渣の処理にも困っておられ、石灰窒素が残渣の腐熟を促進する効果もあることには非常に興味を持たれており、次回、ぜひ試してみたいとのことでした。

美味しい食べ方のひとつとして、通常のコロッケの中にキャベツを入れた“キャベコロ”というものがあります。キャベツのシャキシャキ感が楽しめるので「ぜひお試しください」と語っておられました。

(取材：デンカ(株) 松尾)



ネコブセンチュウ対策として石灰窒素を使用している金子さん